

エレクトロニクス
事業高速3Dビジョンセンサー
クラセンス (KURASENSE)

■クラセンスの技術の特長



ロボット大賞「日本機械工業連合会会長賞」受賞

このたび、クラセンス (KURASENSE) は第10回ロボット大賞にて「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。あらためて関係者各位のご尽力に感謝いたします。

「ロボット大賞」は、わが国のロボット技術の発展やロボット活用の拡大等を促すため、特に優れたロボットや要素技術などを表彰する制度で、2年に1度開催されます。

クラセンスが生まれたきっかけは、「ロボットができないことって何?」と、「クラボウの得意な技術って何?」でした。

このかけ算は、「高速な3Dカメラがあれば、ロボットでケーブルをつかむことができる」で、できないことが、できるようになる一つ一つの階段が面白くて、その積み重ねで現在に至ります。でも、繊維の会社なのに一番難しい相手は、実は綿の糸で、切れた糸をロボットでつなぐのが最終目標地点です。



▲表彰を受ける黒澤執行役員 (中央) と北井課長 (右)

クラセンスは、社内 で培った画像処理技術の活用とセンサー開発技術、クラセンスを中心としたロボットシステム事業の展開、ロボットメーカーとのオープンイノベーションをはじめとする他社との協業などに評価をいただき、3回目の応募で今回の受賞となりました。

クラセンスは、新規事業の一つとして2016年度に技術研究所で開発をスタートし、技術シーズと、マーケットニーズの両面で開発を進め、2020年4月に環境メカトロニクス事業部で事業化しました。国内の数あるロボット技術、多くの応募の中から選出されたことは、技術の自己満足ではなく外部からの評価をいただいた結果としてうれしく思います。

クラセンスなどのロボット用センサーを軸足とするロボット事業は、次の収益の柱となるべく大きな期待を受けています。今回の受賞をきっかけに事業が飛躍するよう、これからも面白い階段を駆け上がっていきます。

(画像情報課 北井 基善 記)